

学校教育目標	文武両道の精神のもと、以下の教育目標を定める ○ 確かな知性 ○ 豊かな感性 ○ 健全な心身 スローガン「つなぐ伝統 築こう未来」
目指す学校像	(1) 一人ひとりの生徒を大切にする学校 (2) 「質」の高い教育活動を実現する学校 (3) 地域・保護者と共につくる学校
目指す生徒像	(1) 基礎学力を身に付け、自ら学び、将来の夢に向かって努力する 生徒 (2) 地域を愛し、思いやりの心を大切にして、自分の行動に責任をもつ生徒 (3) 心身ともに健康で、何事にも根気強く挑戦する生徒
目指す教師像	(1) 一人ひとりの生徒に目を向け生徒のために全力で何事にも取り組む教師 (2) 授業を第一に考え、授業力向上のための実践と研修に取り組み、常に創意工夫する情熱的な教師 (3) すべての教育活動に積極的に取り組み、組織的に協働する教師

○令和7年度 学校経営計画における重点内容
「人と人とのつながり」や「体験の充実」を一層、重視し、デジタルとリアルのバランスを考えた教育活動を実践することで、誰一人取り残さない学校づくりを目指します。
4つの「CHA」。「CHARGE」チャージ（充電）し、「CHANCE」チャンス（好機）として捉え、「CHALLENGE」チャレンジ（挑戦）し、「CHANGE」チェンジ（変わる）することを推進。
(1) 確かな学力の向上
(2) 豊かな人間性の育成
(3) 豊かな個性と創造力の伸長
特に、国際感覚豊かなグローバルな視点を持ち多文化や共生社会の理解を深めた生徒を育む（台湾交流）。
(4) 開かれた学校づくり
(5) 教員の資質向上
学びの主体は、生徒である。「主体的・対話的で深い学び」の授業を展開できる授業力を生徒に身に付けさせるために、全教職員が教育公務員としての使命感と情熱をもち、校長の学校経営方針に基づいて学校全体で学力向上の取組を組織的に行う。職員会議や校内研修等を通じてサービスの厳正化を図り、服務事故の未然防止を徹底する。また、日頃から職務上・身分上、教育公務員として自覚をもたせ、サービスを厳守させ、学校への信頼を獲得する。
特に、「教師は最大の教育環境」という考えに立ち、立ち居振る舞い・言葉遣い・服装・受容的な態度等、教師としての在り方に十分配慮する。（人権上の不注意や不適切な言動、体罰等の厳禁はあってはならない。）

項目	取組目標	具体的方策	取組指標		成果指標		分析	改善方策	学校関係者評価		
				評価		評価			自己評価	改善方策	意見等
各教科指導等	確かな学力を育てるための分かりやすい授業の実施	○「桜堤中学学習スタンダード」を実践し、授業導入時に「学習のねらい」を明示し、終わりに「学習のねらい」が達成できたか、全教員に確認させる。 ○全授業で、A Iアプリを活用した授業形態を導入するとともに、授業の始めに5分間の前時の授業の復習タイムを導入する。授業だけでなく家庭学習でも多くの時間を活用させる。	4	授業に対して意欲的に取り組む生徒を育てる。		4	学校評価生徒アンケートQ19「私は、授業では進んで自分の意見や感想などを発表している」が後期1月結果が前期7月より、10%以上向上				
			3	桜堤中学学習スタンダードに沿った授業を全教員が行う。		3	毎時間、全教員が学習のねらいを板書き授業終わりにアウトプットする。				
			2	どの授業もねらいやまとめ、アウトプットを設定。		2	学校評価生徒アンケートQ18「私にとって 授業は分かりやすく楽しい」が後期1月結果が前期7月より、10%以上向上				
			1	I C T機器やタブレット端末等活用した授業展開。		1					
	特別な配慮を必要とする生徒に対しての、特別支援委員会を活用した組織的な支援。	○個に応じた指導を支援員や特別支援教育コーディネーターを中心に、委員会とS Cが連携し特別な配慮を行う。 ○巡回相談員やS S W、委員会がS S Rに登校する生徒の情報共有を全校にフィードバックし、特別な支援を必要とする生徒への具体的な支援を組織的に行う。	4	個別指導や支援計画を基に委員会とS Cが連携し計画的に行う。		4	委員会が6月までに個別支援計画等を作成し、指導の方向性を確認する。				
			3	巡回相談員や委員会が支援を組織的に行う。		3	巡回相談員やS C、特別支援教育専門員との連携し、生徒、保護者への適切な支援・助言を行う。				
			2			2					
			1			1					
	教員の指導力・授業力を高めるための、組織的な取組。	○これまでの研究成果を活用し「横断型授業づくりを通して、生徒の自己肯定感を高める」研究テーマに迫る、他教科と連携した授業実践を行う。 ○ジグゾー法やI C T機器を活用した主体的・対話的で深い学びを実現する。 ○「指導と評価の一体化」を更に進め、全教員が意欲的に授業改善、授業力の 向上。	4	墨田区研究奨励校I C T教育推進校や特色ある学校づくり推進校の成果を活かす。		4	I C T機器やタブレット端末を活用した授業実践を年3回行う。				
			3	タキソノミー理論と「指導と評価の一体化」を結合し、全教員が授業力向上を目指す。		3	「指導と評価の一体化」の校内研修を年3回行い、研修成果を授業改善に生かす。				
			2	研究テーマに迫るため、ジグゾー法やI C T機器を活用した主体的・対話的で深い学びを実現する。		2	7、9、1月に講師を招いた校内研究を3回実施。				
			1			1	ジグゾー法やI C T機器を活用した主体的・対話的で深い学びを実現する。				
生活指導等	生徒の基礎・基本の定着への取組。	○6月からS S Tを活用した放課後学習教室で、基礎学力向上と学力下位（D E層）への対応を図る。 ○家庭学習を定着させるため1日30分以上取り組ませる効果的な宿題を提案。 ○各種検定（漢検・数検・英検）の受検率と合格率をアップする。 ○国語・数学・英語コンテスト」の合格率を上げる。	4	放課後学習教室では、経営推進部が中心にS S Tと協力して実施する。		4	前期中間調査の結果を踏まえ、6月下旬より、定期的に放課後に数学と英語を各学年で25回以上実施。				
			3	朝学習で5教科対応のミライシード等で活用しドリル等の反復練習させ基礎・基本の定着を図る。		3	学校評価生徒アンケートQ19「私は、授業では進んで自分の意見や感想などを発表している」が後期1月結果が前期7月より、10%以上向上				
			2	各種検定（漢検・数検・英検）の受検率と合格率をアップできるように各教科で支援する。		2	検定受験率を30%以上、検定結果を前年度の10%アップを目標にする。				
			1	基礎学力向上のための「国語・数学・英語・理科・社会」コンテストを実施して学ぶ意欲の醸成を図る		1	5科のコンテストと授業を連動し、各学年行事の取組としコンテストの結果を数値化して検証する。				
	自己実現に向けたキャリア教育・進路指導。	○マイキャリアノートを活用し地域との協力や地域人材の活用を基本に、【1年】職業調べ【2年】職場体験【3年】進路選択等を関連付けた指導を継続的に実施。 ○上級学校や社会で活躍する人達より実際の姿を学び、将来の自分の姿を考えさせるなど地域や企業の方々の意見を聞く機会を設定。	4	上級学校や社会で活躍する人達より、実際の姿を学び、将来の自分の姿を考えさせる。		4	年間を通して、各学年でキャリア教育を10から15時間実施する。				
			3	地域人材を活用し、職業調べや職場体験、進路選択等を関連付けた指導を継続的に実施する。		3	地域人材を活用し、学校支援ネットワークや地域の方による出前授業や面接練習を実施する。				
			2			2					
			1			1					
	問題行動の予防や解決に向けた組織的な取組。	○生徒指導資料「桜堤中サトライン」を活用し、全教職員で生徒に寄り添う指導を行う。 ○特別支援委員会の主導で各学年の課題のある生徒の具体的な支援、取組を継続し、充実させる。 ○不登校生徒や支援が必要な生徒やその保護者に対して、特別支援委員会を通してS CやS S W、関係諸機関との連携を図る。	4	「桜堤中サトライン」を活用した生活規律を確立させ、全教職員が生徒に寄り添った指導を行い共通理解を図る。		4	5月最初の週に「桜堤中サトライン」を活用とした生徒指導を全校で行う。職員会議において全教職員で共有する。				
			3	特別支援委員会主導で各学年の課題のある生徒の具体的な支援、取組を継続する。		3	6月初旬までに学年会で話し合い、具体的な取組で共通理解を図る。				
			2	不登校生徒や支援が必要な生徒、保護者に対して、特別支援委員会で関係諸機関との連携を支援する。		2	毎週の特別支援委員会で具体策を検討し、計画的に支援を行う。				
			1	保護者との連携を密にし、早期発見、早期指導に努める。		1	不登校生徒数を6%以下に減少。問題行動傾向のある生徒の保護者にS Cとの面談を計画的に勧める。				

項目	取組目標	具体的方策	取組指標		成果指標	分析	改善方策	学校関係者評価		
				評価					評価	自己評価
学校の管理運営	基本的な生活・社会習慣、人間関係づくりのための心の教育。	○特別な教科「道徳」を各学年所属教員が輪番で授業を行う。 ○生活指導主任が生活指導たより（自他共栄）を発行し、ルールやマナーの周知徹底を図る。 ○生活目標「あ・じ・み・こ・し」を周知徹底する。 ○桜堤中ブロック幼保小中一貫教育を活用した人間関係の構築を図る。	4		4					
			3		3					
			2		2					
			1		1					
			4		4					
	安全を確保するための取組。	○安全指導・避難訓練を年間計画通りに実施する。 ○向島警察、青少年育成委員会、PTA校外委員と連携を図り、長期休業中にパトロール（声かけ運動）を実施し、生徒たちの健全育成に努める。	3		3					
			2		2					
			1		1					
			4		4					
			3		3					
	チャレンジクラスの周知徹底や準備・運営を行い、温かい人間関係や活気あふれる学校づくりを構築。	○チャレンジクラスⅠ組の周知徹底と教育課程の工夫や充実を図る。 ○SSRの充実を図る。4月当初から運営を開始。支援員の日報や授業観察を通して養護教諭や特別支援コーディネーター等と情報共有を強化する。 ○週1回特別支援委員会を開催し、個別支援計画に基づいた指導を実施し80％の教室復帰を目指す。	2		2					
			1		1					
4			4							
3			3							
2			2							
家庭・地域連携	経営方針に基づいた組織的な教育活動・学校運営	○企画調整会議で、職員会議の議題整理を実施し、経営方針の共通理解を図り、全教職員で組織的な教育活動・学校運営を展開する。 ○教務部や生活指導、進路指導部、経営推進部の職務内容を整理し、働き方改革を推進する。	4		4					
			3		3					
			2		2					
			1		1					
			4		4					
	生徒の実態に合わせた教育目標設定及び評価	○生徒・保護者に、アンケートを実施することにより、教育目標達成に向けた評価を行うとともに、そのことを、PDCAサイクルによるカリキュラムマネジメントに活かす。	3		3					
			2		2					
			1		1					
			4		4					
			3		3					
	教育環境・設備等の整備状況	○機能的な校舎を有効に活用した教育活動を実施する。 ○安全を担保し、校内の教育環境・設備等を充実させる。	2		2					
			1		1					
4			4							
3			3							
2			2							
	教育方針や日常の教育活動の様子などを伝える取組	○毎月、毎週、桜堤中学校の生徒の様子や活躍の姿、よさを積極的に、学校だよりや学校ホームページで発信していく。 ○保護者会全体会・学年懇談会を実施して、周知・協力を求める。	4		4					
			3		3					
			2		2					
			1		1					
			4		4					
	保護者や地域の理解や協力を得た教育活動の推進	○「あいさつ運動」を毎月第1週の一週間に、桜堤中地区青少年育成委員会や町会、自治会、PTAの協力で計画的に実施する。 ○地域清掃（墨堤通り・東白鬚公園内）を行う。 ○桜堤中地区青少年育成委員会主催の「桜堤フェスタ」を学校・地域・PTA・生徒が連携を図り、地域コミュニティの場となるよう運営する。	3		3					
			2		2					
			1		1					
			4		4					
			3		3					

○令和7年度 学校経営報告のまとめ（総括）